

熊本大学教職大学院情報教育研修会

「自己調整学習」

～「人は学び方をどのように学ぶのか」～

日時：2024年12月7日（土）9時30分～11時30分

場所：Zoomによるオンライン 定員：100人（事前登録制）

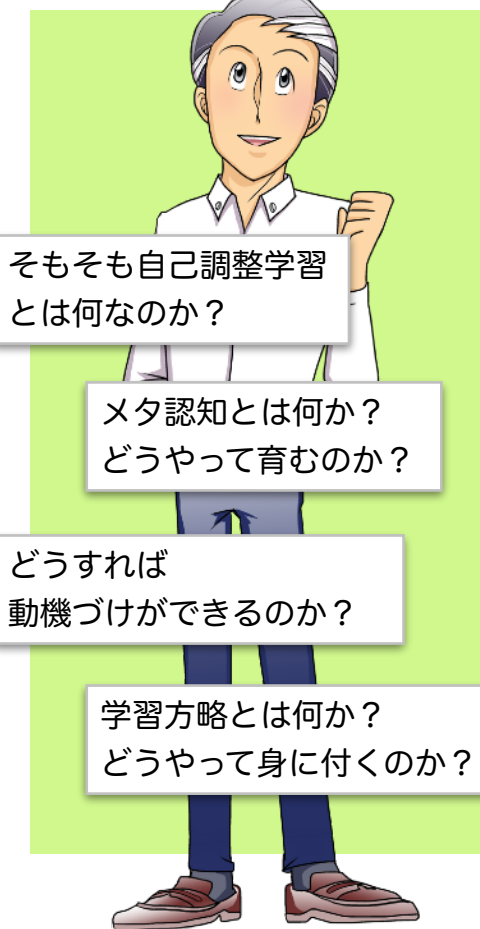
主催：熊本大学教職大学院 共催：熊本大学教育学部情報教育研究会+D-project（デジタル表現研究会）

参加費：無料 申し込み締め切り：12月5日（木）（満員になり次第申込を終了します）

令和3年に出された中央教育審議会答申には「子供が自らの学習の状況を把握し、主体的に学習を調整することができるよう促していくことが求められる。」と書かれてあります。

さて「学習を調整する」とは、一体どういうことなのでしょう。子どもに任せれば、子どもは自己調整しながら学んでいくものなのでしょうか。

そこで今回は、教育心理学の研究者である伊藤崇達先生（九州大学）をお招きして、自己調整学習の理論について学んでいきます。熊本大学の前田康裕特任教授が聞き手となって、学術用語を解きほぐしていく予定です。オンラインですので、お気軽にお申し込みください。



伊藤 崇達 著
『自己調整学習の成立過程
学習方略と動機づけの役割』
（北大路書房）



講師 伊藤崇達（いとう たかみち）

九州大学人間環境学研究院 人間科学部門准教授。教育心理学、とりわけ、教授・学習心理学の見地から、学習者および教授者の心理学的プロセスについて研究を進めている。主として、次のような領域に関心を向けている。1. 自己調整学習やピア・ラーニングを通じたパフォーマンスの向上プロセス 2. 人間の成長と生涯学習を視野に入れた学習方略と動機づけ、学習支援。



聞き手

前田康裕
熊本大学大学院
特任教授



※ 参加申込み：こくちーず QRコードまたは、以下のURLを使ってお申し込みください。

<https://kokc.jp/e/a10dd87740b2060e749bebb8b8e40cf0/>

【教職員支援機構とは】

独立行政法人教職員支援機構は、教職員に対する総合的支援を行う全国拠点として、国の教育政策上必要とする研修の効果的な実施や調査研究等を通じ、教職員の資質・能力の向上に寄与する組織です。英語表記である「National Institute for School Teachers and Staff Development」から「N、I、T、S」の頭文字を取って、「NITS（ニッツ）」を略称としています。

【NITS・教職大学院等コラボ研修プログラム支援事業とは】

教職員支援機構（NITS）が、「学び続ける教員像」の具現化に資するため、各地域における現職教員の研修の高度化・体系化を実現するための支援をするものとし、各教職大学院等が実施する研修、セミナー、ワークショップ等の開催にあたり所定の補助を行う事業です。

<https://www.nits.go.jp/service/collabo/>